坂戸市立入西小学校

様式3　まとめ（自己評価および学校関係者評価）

坂戸市学校評価システム

令和5年度　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立入西小学校
実施日	令和6年2月28日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価　A：よくできている　　B：概ねできている　　C：あまりできていない　　D：できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・客観的エビデンス（根拠や証拠）を基にして学校経営戦略を立案、周知。結果、全職員が情報を共有し、共通行動で学校運営にあたった。	A	・校訓「自ら」は入西小の特色として児童の行事活動に見い出せる。 ・管理職を中心に教職員全体で特色ある学校づくりに取り組んでいることが伝わる。 ・それぞれ職員一人一人が、学校での情報等を共有し、学校運営にあたっている。 ・学校だよりで教育方針を保護者・地域に発信している。 ・毎年行われる「田植えから食べる」までの授業が、とても特色がある。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・交通事故、不審者情報、火事等の事故やトラブルに際し、迅速に根拠のある正確な情報を集め、職員全体で安全指導に当たったり、保護者地域に情報を発信し、協働して安全確保をしたりすることができた。	A	・子供たちの安全指導にあたっては、教員、地域が一体となり安全確保に努めた。 ・消防団として消火活動を行っている際、児童の下校時刻に必ず教師が安全確認のため付き添っていた。善能寺の（火事の）案件の時も付き添っていた。 ・マメールで情報発信する等、注意喚起が迅速に実施されている。 ・マメールでの配信は、対象の保護者に迅速に伝わり、効果的に活用されている。 ・特に職員全体以外に、市役所、西入間警察署、入西交番に迅速な情報提供、情報共有することが大切である。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（共通項目）	B	・会議自体の精選、会議内容の精選により、大幅な会議時間の削減が実現できた。病気休暇取得の申請率も上がり利用しやすい環境が実現できている。	B	・会議の効率化や事業の精査等に取り組んでいることは伝わるが、それ以上に教職員の業務が多岐にわたっているため、まだ改善の余地があると考える。 ・職員不足の中でも努力していると説明を受けた。しかし複数の職員からのもう少し改善を求められている現実を考えるとこの評価になる。 ・更なる改善により、職員の勤務負担が軽減されることが必要である。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 （市共通項目）	B	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「認めて、ほめて、伸ばす」指導の徹底に取り組んだ。特に、基礎・基本の確実な定着は本校の課題であり、授業実践に基づく指導・助言、ICTの効果的な活用を進めた。	B	・教材研究や事業改善を積極的に行い、授業を大切にして児童の学力向上を目指していることが伝わる。 ・「褒める」事で児童のやる気を引き出す授業は、今後も続けてほしい。 ・ICT活用は深い学びに寄与している。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・弁護士を講師とした「いじめ防止」の授業を高学年で実施したり、全校での課外授業、体験授業、道徳の授業等を丁寧に実施したりしながら、教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・様々な課外授業、体験活動等日常では体験できない機会を通して、豊かな心を育めていると感じる。 ・豊かな心の教育を、職員が共有認識として意識し、児童に接している。 ・いじめ防止対策が評価できる。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。 （市共通項目）	B	・学び合う人間関係づくりを大切にしながら、学びの目標を児童が明確に意識し意欲的に授業に取り組む環境の実現を図った。特に、授業（実践）を通して研修を重ねた結果、徐々に落ち着いた学びが実現できている。	A	・授業中立歩きをする児童は確実に減っていると思う。低学年も静かに聞くことができて素晴らしい。 ・すべての学年で児童が集中して授業を聞き、意欲的に発表をしる。 ・各学級での班活動や、学年を越えた縦割り活動は児童の情緒育成、学力向上に寄与している。 ・参観した授業の多くが、グループにて学習していた。ともすると浮ついた雰囲気になるところが（学習の）目的に向かって（学んでいた）。（児童は）しっかりと授業に向き合っていた。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 （市共通項目）	A	・倫理確立委員会を実施し、具体的な事例を基に、職員自体が考える内容の研修を繰り返し実施した。管理職からも躊躇せず指導をしているが、職員間で互いに、事故防止の意識を高めあい、声を掛け合っている状況が広がりつつある。	A	・「いじめ」に対して、8段階の（情報収集、事実確認等の）確認行程があり、全て（の教員）にフィードバックができると聞いた。先生方が互いに（この事案は「いじめ」ではないのか等）確認しあい、うっかり（「いじめ」を見過ごす事）等を無くすよう努力していると感じる。 ・具体的な事例を基に、職員間で児童の安全な事故防止策が見受けらる。 ・職員同士の良い関係が不祥事防止につながっている。 ・地域、保護者と連携し、事故防止に取り組んでいる。 ・管理職の指導はもちろんだが、教職員通しの仲の良さ（横のつながり）により様々な（問題になる）ことが未然に防げているように感じる。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。	A	「子ども一人ひとりが生き生きと輝く教育」を推進した。目指す学校像、学校教育目標、経営方針、重点等一貫した運営方針に基づき、一人ひとりを認め、大切にした授業を実現した。	A	・学校の教育目標　経営方針等の運営方針に基づいた授業実現が見受けられた。 ・子供たちの意見や主張を丁寧に傾聴する姿勢を、職員全員が共通認識として持っている。 ・教職員が児童一人一人としっかりと向き合い接している。教職員の子供たちの為を思って行動してくれているのが伝わる。 ・多くの教室で一人一人の（学習の）成果物を展示しているのはとても良い。その（児童の）個性を先生方が一生懸命抽出しようとしているのを何度も拝見した。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・発達段階と特性、学齢を基にした学級編制が効果的であり教育体制の充実につながった。具体的には昨年度より学級内での人間関係が落ち着き、交流学級でのトラブルに集中して対応することができた。より、一人一人の特性によりそった教育計画が必要である。	A	・特別支援の必要な児童に対して、個性を引き出す教育をしている。 ・特別支援学級の児童が笑顔で　楽しんで授業を受けているのが印象的である。また、教職員が児童に合わせた接し方をしている。 ・各学年の教室の並びに特別支援教室があるが、これは、一般児童にとっても全ての個性が地続きである（という）事を、良い方向で体感できる（学習環境）である。 ・特別支援学級の管理している畑の植物やお花はいつもきれいに管理されている。教師が児童の皆と頑張って（栽培の世話等の）作業をしているのだろうと、感心する。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・常に危機感と緊張感をもった日常の校内巡視や情報共有を通して徹底的な不要物処分による整理整頓と施設改善の結果、安全空間の拡充と有効活用を実現した。定期的な安全点検と事後措置の完全実施（月1回）、修繕、消耗品、給食関係等予算の正確な把握と執行状況の確認（月1回）も実施できた。	A	・以前に比べて校内がとてもよく整備されている。特別なことでなく、このような基本的なことが安全につながる。 ・学校全体がすっきりとした印象になった。いつも感心している。素晴らしい。 ・校内の用具は整理整頓されており、機動的に活用できる環境にある。 ・古い設備の更新を積極的に進めることが必要である。 ・不用品の処分を行うことで校舎、校庭、の有効利用をしている。 ・危険個所の洗い出しや事故を未然に防ぐ取り組みを実施している。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 （市共通項目）	A	・「たより」「マメール」を適切に情報提供ができた。積極的に保護者向けに授業や行事を公開しながら、家庭や地域に向けて開かれた学校づくりをした。学校応援団により教育内容の充実や安全の確保もできた。	A	・開かれた学校づくりを目指し　学校・地域・社会が一体となり教育内容の充実を図っている。 ・行事や授業参観等学校公開に積極的に行っている。 ・保護者に対しては適切な情報発信ができている。 ・地域に対しては「学校たより」等の地域への情報発信に関して、改善の余地がある。 ・入西小たよりが発行される毎に回覧板にて地域に回覧されてるので十分な発信になっている。 ・マメールでこまめに情報発信いただけてはいるが　ホームページが情報不足である。入学前の方や地域の方は検索すると一番に出てくるので、　そこはもう少し充実させてほしい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	・担任の意識を高め、高学年で「いじめ防止」の為の弁護士による授業を実施、いじめについて意識を高め、未然防止をした。 ・地元消防団の方の協力を得て、防火教育を実施（3学年）した。 ・社会福祉協議会の協力を得て、福祉教育（盲導犬講座）（5学年）を実施した。 ・読み聞かせ読書ボランティアの協力を得て、生活科単元学習（特別支援学級）を実施した。 ・越生学園武蔵越生高等学校和太鼓部の協力を得て、クラブ活動を実施した。	A	・学校応援団やボランティア、ゲストティーチャーの活用は、地域と学校を繋ぎ児童の学習意欲向上に役立っている。 ・学校応援団の取り組みはとても素晴らしいので、もっと視野を広げて多くのボランティアを募ることで、より素晴らしい活動ができるようになると感じる。 ・消防団の出前授業を毎年やっているのは入西小学校のみである。消防団も毎年楽しく工夫させていただいている。 ・コロナも落ち着いてきたので、もっと地域の高齢者の方とお話しできる機会を作って地域全体で小学生を見守る目を増やしてほしい。 ・登下校時の高齢者の見守活動はとてもありがたいと感じる。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 （市共通項目）	B	・流感や事故対応、合同行事等情報共有したり必要に応じて共通指導を行ったりした。 ・小中一貫教育の視点に立ち、一貫した生徒指導事項や発達段階に応じた規律項目の作成等意識を高め推進していく必要がある。	B	・小中一貫教育については小学校、中学校がそれぞれ共通意識を持つことが重要と考える。（校区内の小中学校が連携して進めていくことが必要である） ・小中学職員同士の情報交換は今後も続けることが必要である。 ・中学校体験活動はスムーズな進学に寄与している。 ・入西小は学年の壁があまりなく縦割りで活動しても仲良く行動できる。それが中学になると先輩後輩に急に分かれてしまう。中学に入って感じる中一ギャップを減らすために、小学生のうちに中1と小6が一緒に部活や授業　行事に参加できる機会があればと思う。 ・中学につながる学習をしていると思う。ただ、もう少し中学校を直接感じることができる行事や授業、クラブ活動があってもよい。